

四半期報告書

(第97期第1四半期)

自 平成26年4月1日

至 平成26年6月30日

株式会社 名古屋銀行

E03652

当四半期報告書は、電子開示手続により
提出した四半期報告書の記載事項を印刷製
本したものであります。

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	7
(4) ライツプランの内容	7
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(6) 大株主の状況	7
(7) 議決権の状況	8

2 役員の状況

	8
--	---

第4 経理の状況

	9
--	---

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11

2 その他

	20
--	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報

	20
--	----

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年8月7日
【四半期会計期間】	第97期第1四半期（自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）
【会社名】	株式会社 名古屋銀行
【英訳名】	The Bank of Nagoya, Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役頭取 中村 昌弘
【本店の所在の場所】	名古屋市中区錦三丁目19番17号
【電話番号】	名古屋（052）951-5911（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役総合企画部長 杉田 尚人
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区八重洲二丁目2番10号 株式会社 名古屋銀行 東京事務所
【電話番号】	東京（03）3277-1091
【事務連絡者氏名】	東京事務所長 高見 功
【縦覧に供する場所】	株式会社 名古屋銀行 岐阜支店 （岐阜市長住町六丁目14番地） 株式会社 名古屋銀行 東京支店 （東京都中央区八重洲二丁目2番10号） 株式会社 名古屋銀行 大阪支店 （大阪市北区西天満五丁目16番5号） 株式会社 名古屋銀行 静岡支店 （静岡市葵区追手町1番6号） 株式会社 東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社 名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

（注） 東京支店、大阪支店、静岡支店は金融商品取引法の規定による備付場所ではありませんが、投資者の便宜のため四半期報告書の写しを備えるものであります。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

		平成25年度第1四半期 連結累計期間	平成26年度第1四半期 連結累計期間	平成25年度
		(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
経常収益	百万円	16,118	15,723	61,994
経常利益	百万円	3,169	3,073	10,140
四半期純利益	百万円	2,053	2,122	—
当期純利益	百万円	—	—	5,440
四半期包括利益	百万円	3,997	6,492	—
包括利益	百万円	—	—	11,056
純資産額	百万円	198,687	213,304	206,889
総資産額	百万円	3,298,815	3,357,824	3,299,106
1株当たり四半期純利益 金額	円	10.03	10.37	—
1株当たり当期純利益 金額	円	—	—	26.58
潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額	円	—	—	—
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額	円	—	—	—
自己資本比率	%	5.90	6.23	6.14

(注) 1. 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末少数株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、個人消費や生産など一部に弱い動きがみられ、また中国・新興国経済の成長の鈍化や原材料価格の高騰等の不安材料もあり、先行き不透明な状況が続いております。

このような経済状況下、当行の連結ベースでの当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

預金の当第1四半期連結会計期間末残高につきましては、当第1四半期連結累計期間中533億86百万円増加し3兆21億96百万円となりました。預金の増加のうち、個人預金につきましては、当第1四半期連結累計期間中221億8百万円の増加となりました。

貸出金の当第1四半期連結会計期間末残高につきましては、資金ニーズの低迷等により当第1四半期連結累計期間中361億75百万円減少し2兆735億99百万円となりました。

またグループ全体の経常収益は、利回り低下による貸出金利息の減少、及び株式等売却益等が減少したことを主な要因として、前年同四半期連結累計期間に比べ3億95百万円減少し157億23百万円となりました。経常費用は、資金調達費用の減少及び貸倒引当金が戻し入れとなったこと等を主な要因として、前年同四半期連結累計期間に比べ2億99百万円減少し126億49百万円となりました。

この結果、経常利益は前年同四半期連結累計期間に比べ95百万円減少し30億73百万円となり、四半期純利益は前年同四半期連結累計期間に比べ69百万円増加し21億22百万円となりました。

セグメントごとの経営成績につきましては、次のとおりであります。

(銀行業務)

経常収益は利回り低下による貸出金利息の減少、及び株式等売却益等が減少したことにより、前年同四半期連結累計期間に比べ4億8百万円減少し122億49百万円となりました。

セグメント利益は資金調達費用が減少し、また貸倒引当金が戻し入れとなったものの、上記経常収益の減少には及ばず、前年同四半期連結累計期間に比べ72百万円減少し27億91百万円となりました。

(リース業務)

経常収益は前年同四半期連結累計期間に比べ42百万円減少し30億61百万円、セグメント利益は前年同四半期連結累計期間に比べ36百万円減少し59百万円となりました。

(カード業務)

経常収益は前年同四半期連結累計期間に比べ40百万円増加し5億62百万円、セグメント利益は前年同四半期連結累計期間に比べ15百万円増加し2億13百万円となりました。

(その他業務)

経常収益は前年同四半期連結累計期間に比べ0百万円減少し93百万円、セグメント利益は前年同四半期連結累計期間に比べ0百万円減少し19百万円となりました。

① 国内・海外別収支

経常収益に占める主なものは、資金運用収益（合計）が61%、その他業務収益（合計）が24%であります。経常費用に占める資金調達費用（合計）の割合は4%、その他業務費用（合計）は22%となっております。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額(△)	合計
		金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）
資金運用収支	前第1四半期連結累計期間	9,415	13	△5	9,424
	当第1四半期連結累計期間	9,158	22	△3	9,176
うち資金運用収益	前第1四半期連結累計期間	9,925	13	△37	9,902
	当第1四半期連結累計期間	9,628	22	△27	9,623
うち資金調達費用	前第1四半期連結累計期間	510	0	△32	477
	当第1四半期連結累計期間	470	0	△24	446
役務取引等収支	前第1四半期連結累計期間	1,226	△0	90	1,316
	当第1四半期連結累計期間	1,097	0	92	1,189
うち役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	1,948	0	△6	1,942
	当第1四半期連結累計期間	1,816	0	△6	1,810
うち役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	722	0	△96	626
	当第1四半期連結累計期間	718	0	△98	620
その他業務収支	前第1四半期連結累計期間	1,168	5	△175	998
	当第1四半期連結累計期間	1,086	3	△178	911
うちその他業務収益	前第1四半期連結累計期間	3,972	5	△189	3,787
	当第1四半期連結累計期間	3,945	3	△195	3,753
うちその他業務費用	前第1四半期連結累計期間	2,803	—	△13	2,789
	当第1四半期連結累計期間	2,859	—	△17	2,842

(注) 1. 「国内」とは、当行（海外店を除く）及び連結子会社であります。

2. 「海外」とは、当行の海外店であります。

3. 「合計」欄は、内部取引金額等（相殺消去額（△））を相殺消去しております。

② 国内・海外別役務取引の状況

役務取引等収益（合計）は、1,810百万円、役務取引等費用（合計）は、620百万円となりました。役務取引等収益のうち、預金・貸出業務が576百万円（32%）、為替業務が707百万円（39%）となっております。

役務取引等費用の主なものは、為替業務の169百万円（27%）であります。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額(△)	合計
		金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）
役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	1,948	0	△6	1,942
	当第1四半期連結累計期間	1,816	0	△6	1,810
うち預金・貸出業務	前第1四半期連結累計期間	585	0	△2	582
	当第1四半期連結累計期間	578	0	△2	576
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	724	0	△3	720
	当第1四半期連結累計期間	711	0	△3	707
うち証券関連業務	前第1四半期連結累計期間	349	—	—	349
	当第1四半期連結累計期間	254	—	—	254
うち代理業務	前第1四半期連結累計期間	216	—	—	216
	当第1四半期連結累計期間	176	—	—	176
うち保護預り・貸金庫業務	前第1四半期連結累計期間	48	—	—	48
	当第1四半期連結累計期間	45	—	—	45
うち保証業務	前第1四半期連結累計期間	13	—	—	13
	当第1四半期連結累計期間	12	—	—	12
役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	722	0	△96	626
	当第1四半期連結累計期間	718	0	△98	620
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	159	0	—	159
	当第1四半期連結累計期間	169	—	—	169

(注) 1. 「国内」とは、当行（海外店を除く）及び連結子会社であります。

2. 「海外」とは、当行の海外店であります。

3. 「合計」欄は、内部取引金額等（相殺消去額（△））を相殺消去しております。

③ 国内・海外別預金残高の状況

○ 預金の種類別残高（未残）

種類	期別	国内	海外	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第1四半期連結会計期間	2,972,794	144	△4,960	2,967,979
	当第1四半期連結会計期間	3,008,137	438	△6,379	3,002,196
うち流動性預金	前第1四半期連結会計期間	1,690,586	129	△4,960	1,685,756
	当第1四半期連結会計期間	1,702,672	72	△6,379	1,696,365
うち定期性預金	前第1四半期連結会計期間	1,241,313	14	—	1,241,328
	当第1四半期連結会計期間	1,250,003	365	—	1,250,369
うちその他	前第1四半期連結会計期間	40,894	—	—	40,894
	当第1四半期連結会計期間	55,461	—	—	55,461
譲渡性預金	前第1四半期連結会計期間	48,690	—	—	48,690
	当第1四半期連結会計期間	50,205	—	—	50,205
総合計	前第1四半期連結会計期間	3,021,484	144	△4,960	3,016,669
	当第1四半期連結会計期間	3,058,342	438	△6,379	3,052,401

(注) 1. 「国内」とは、当行（海外店を除く）及び連結子会社であります。

2. 「海外」とは、当行の海外店であります。

3. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金

4. 定期性預金＝定期預金＋定期積金

5. 「合計」欄は、内部取引金額等（相殺消去額（△））を相殺消去しております。

④ 国内・海外別貸出金残高の状況

○ 業種別貸出状況（末残・構成比）

業種別	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
国内（除く特別国際金融取引勘定分）	2,039,743	100.00	2,073,154	100.00
製造業	415,038	20.35	411,787	19.86
農業、林業	1,010	0.05	1,062	0.05
漁業	72	0.00	177	0.01
鉱業、採石業、砂利採取業	2,712	0.13	2,644	0.13
建設業	138,616	6.80	138,348	6.67
電気・ガス・熱供給・水道業	35,675	1.75	36,675	1.77
情報通信業	27,038	1.33	25,857	1.25
運輸業、郵便業	88,584	4.34	86,488	4.17
卸売業、小売業	348,881	17.11	344,157	16.60
金融業、保険業	51,021	2.50	69,899	3.37
不動産業、物品賃貸業	212,925	10.44	223,389	10.78
学術研究、専門・技術サービス業	17,095	0.84	16,547	0.80
宿泊業、飲食サービス業	23,527	1.15	23,505	1.13
生活関連サービス業、娯楽業	28,577	1.40	27,962	1.35
教育、学習支援業	7,755	0.38	7,445	0.36
医療、福祉	30,860	1.51	37,131	1.79
その他のサービス	38,892	1.91	39,204	1.89
地方公共団体	13,513	0.66	10,025	0.48
その他	557,941	27.35	570,844	27.54
海外及び特別国際金融取引勘定分	219	100.00	445	100.00
政府等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
その他	219	100.00	445	100.00
合計	2,039,963	—	2,073,599	—

（注）1. 「国内」とは、当行（海外店を除く）及び連結子会社であります。

2. 「海外」とは、当行の海外店であります。

3. 連結会社間の取引は、相殺消去しております。

（2）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当行グループ（当行及び連結子会社）の事業上及び財政上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

（3）研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	500,000,000
計	500,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年8月7日)	上場金融商品取引所名又は登 録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	205,054,873	205,054,873	東京証券取引所(市場第一部) 名古屋証券取引所(市場第一部)	単元株式数は1,000株 であります。
計	205,054,873	205,054,873	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日	—	205,054	—	25,090	—	18,645

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 436,000	—	単元株式数は1,000株 であります。
完全議決権株式（その他）	普通株式 203,379,000	203,379	単元株式数は1,000株 であります。
単元未満株式	普通株式 1,239,873	—	—
発行済株式総数	205,054,873	—	—
総株主の議決権	—	203,379	—

(注)上記の「完全議決権株式（その他）」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1千株含まれております。
また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権が1個含まれております。

② 【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に対 する所有株式数の割 合（％）
（自己保有株式） ㈱名古屋銀行	名古屋市中区錦三 丁目19番17号	436,000	—	436,000	0.21
計	—	436,000	—	436,000	0.21

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（自平成26年4月1日 至平成26年6月30日）及び第1四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年6月30日）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
現金預け金	152,950	181,245
コールローン及び買入手形	806	8,910
商品有価証券	16	6
有価証券	※2 948,744	※2 1,007,177
貸出金	※1 2,109,774	※1 2,073,599
外国為替	5,145	5,666
リース債権及びリース投資資産	22,584	21,892
その他資産	15,564	15,134
有形固定資産	36,258	36,160
無形固定資産	2,145	2,040
退職給付に係る資産	13,919	14,005
繰延税金資産	1,118	1,118
支払承諾見返	11,327	11,672
貸倒引当金	△21,248	△20,805
資産の部合計	3,299,106	3,357,824
負債の部		
預金	2,948,809	3,002,196
譲渡性預金	53,005	50,205
コールマネー及び売渡手形	7,204	7,095
債券貸借取引受入担保金	4,086	7,554
借入金	20,062	21,853
外国為替	79	118
その他負債	21,738	18,141
賞与引当金	1,109	266
役員賞与引当金	62	14
退職給付に係る負債	5,725	4,401
役員退職慰労引当金	615	18
睡眠預金払戻損失引当金	386	405
偶発損失引当金	3,434	3,500
利息返還損失引当金	237	231
繰延税金負債	10,538	13,050
再評価に係る繰延税金負債	3,793	3,793
支払承諾	11,327	11,672
負債の部合計	3,092,217	3,144,520
純資産の部		
資本金	25,090	25,090
資本剰余金	18,645	18,645
利益剰余金	115,725	117,774
自己株式	△239	△239
株主資本合計	159,223	161,271
その他有価証券評価差額金	37,899	42,152
繰延ヘッジ損益	△0	2
土地再評価差額金	4,009	4,009
退職給付に係る調整累計額	1,763	1,809
その他の包括利益累計額合計	43,671	47,973
少数株主持分	3,994	4,059
純資産の部合計	206,889	213,304
負債及び純資産の部合計	3,299,106	3,357,824

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
経常収益	16,118	15,723
資金運用収益	9,902	9,623
(うち貸出金利息)	7,079	6,739
(うち有価証券利息配当金)	2,757	2,810
役務取引等収益	1,942	1,810
その他業務収益	3,787	3,753
その他経常収益	※1 486	※1 535
経常費用	12,949	12,649
資金調達費用	477	446
(うち預金利息)	399	358
役務取引等費用	626	620
その他業務費用	2,789	2,842
営業経費	8,632	8,550
その他経常費用	※2 423	※2 189
経常利益	3,169	3,073
特別利益	4	0
固定資産処分益	0	0
その他の特別利益	4	-
特別損失	13	2
固定資産処分損	13	2
税金等調整前四半期純利益	3,160	3,072
法人税等	1,040	883
少数株主損益調整前四半期純利益	2,120	2,188
少数株主利益	67	65
四半期純利益	2,053	2,122

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,120	2,188
その他の包括利益	1,876	4,303
その他有価証券評価差額金	1,877	4,255
繰延ヘッジ損益	△0	2
退職給付に係る調整額	—	46
四半期包括利益	3,997	6,492
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,930	6,424
少数株主に係る四半期包括利益	66	67

【注記事項】

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下、「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率を使用する方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る資産が1億71百万円及び退職給付に係る負債が11億64百万円減少し、繰延税金負債が3億50百万円及び利益剰余金が6億42百万円増加しております。また、当第1四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ20百万円増加しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

税金費用の処理

当行及び連結子会社の税金費用は、当第1四半期会計期間を含む年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じることにより算定しております。

(追加情報)

当行は、平成26年6月27日開催の第96期定時株主総会の決議により、役員退職慰労金制度廃止に伴う打ち切り支給を決議いたしました。これに伴い、「役員退職慰労引当金」を全額取崩し、打ち切り支給額未払分5億45百万円については「その他負債」に含めて表示しております。

なお、連結子会社については従来どおり、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当第1四半期連結会計期間末までに発生していると認められる額を「役員退職慰労引当金」として計上しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
破綻先債権額	2,372百万円	2,747百万円
延滞債権額	62,309百万円	60,141百万円
3ヵ月以上延滞債権額	104百万円	53百万円
貸出条件緩和債権額	21,705百万円	19,759百万円
合計額	86,491百万円	82,700百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

※2. 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
	13,443百万円	12,629百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
貸倒引当金戻入益	－百万円	425百万円
償却債権取立益	－百万円	0百万円
株式等売却益	396百万円	29百万円

※2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
貸倒引当金繰入額	85百万円	－百万円
偶発損失引当金繰入額	220百万円	66百万円
睡眠預金払戻損失引当金繰入額	15百万円	58百万円
株式等売却損	－百万円	18百万円
株式等償却	18百万円	－百万円
貸出金償却	0百万円	0百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
減価償却費	537百万円	622百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	716	3.50	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	716	3.50	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	銀行業務	リース業務	カード業務	計		
経常収益						
外部顧客に対する経常収益	12,601	3,052	474	16,128	0	16,128
セグメント間の内部経常収益	55	51	47	154	94	249
計	12,657	3,103	521	16,282	94	16,377
セグメント利益	2,864	96	198	3,158	19	3,178

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、事務委託サービス業務等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,158
「その他」の区分の利益	19
セグメント間取引消去	△9
四半期連結損益計算書の経常利益	3,169

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他	合計
	銀行業務	リース業務	カード業務	計		
経常収益						
外部顧客に対する経常収益	12,206	3,005	511	15,723	0	15,723
セグメント間の内部経常収益	43	55	50	149	93	243
計	12,249	3,061	562	15,872	93	15,966
セグメント利益	2,791	59	213	3,063	19	3,083

（注） 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、事務委託サービス業務等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	3,063
「その他」の区分の利益	19
セグメント間取引消去	△9
四半期連結損益計算書の経常利益	3,073

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(有価証券関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであることから記載しております。

1. 満期保有目的の債券
該当事項はありません。

2. その他有価証券
前連結会計年度（平成26年3月31日）

	取得原価（百万円）	連結貸借対照表計上額 （百万円）	差額（百万円）
株式	51,415	99,721	48,305
債券	756,730	765,594	8,864
国債	324,112	327,076	2,963
地方債	96,075	97,607	1,532
社債	336,542	340,910	4,368
その他	78,999	79,096	97
合計	887,145	944,412	57,267

当第1四半期連結会計期間（平成26年6月30日）

	取得原価（百万円）	四半期連結貸借対照表計上額 （百万円）	差額（百万円）
株式	51,545	105,138	53,592
債券	795,804	805,223	9,419
国債	333,617	336,816	3,198
地方債	95,900	97,517	1,617
社債	366,287	370,890	4,603
その他	91,826	92,480	654
合計	939,176	1,002,842	63,665

(注) その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）とするとともに、評価差額を当第1四半期連結累計期間（連結会計年度）の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

前連結会計年度における減損処理額は、179百万円（うち、株式178百万円、その他0百万円）であります。

当第1四半期連結累計期間における減損処理額は、30百万円（うち、債券30百万円）であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、時価が取得原価に比べて30%以上下落したものとしております。減損処理にあたり、時価のある銘柄は、四半期連結会計期間末日（連結会計年度末日）における時価の取得原価に対する下落率が50%以上の銘柄について、一律減損処理しております。

下落率が30%以上50%未満の銘柄については、回復可能性を検討し、時価の下落が一時的で、概ね1年以内に取得原価に近い水準まで時価が回復することを合理的な根拠をもって予測できる場合を除き、すべて減損処理しております。

(デリバティブ取引関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであることから記載しております。

(1) 金利関連取引

前連結会計年度（平成26年3月31日）

区分	種類	契約額等（百万円）	時価（百万円）	評価損益（百万円）
店頭	金利先渡契約	—	—	—
	金利スワップ	20,000	△1,085	△1,085
	金利オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
合計		—	△1,085	△1,085

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

当第1四半期連結会計期間（平成26年6月30日）

区分	種類	契約額等（百万円）	時価（百万円）	評価損益（百万円）
店頭	金利先渡契約	—	—	—
	金利スワップ	20,000	△1,128	△1,128
	金利オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
合計		—	△1,128	△1,128

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

(2) 通貨関連取引

前連結会計年度（平成26年3月31日）

区分	種類	契約額等（百万円）	時価（百万円）	評価損益（百万円）
店頭	通貨スワップ	26,393	△356	△356
	為替予約	5,183	△14	△14
	通貨オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
合計		—	△371	△371

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号）等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等は、上記記載から除いております。

当第1四半期連結会計期間（平成26年6月30日）

区分	種類	契約額等（百万円）	時価（百万円）	評価損益（百万円）
店頭	通貨スワップ	34,198	274	274
	為替予約	6,770	15	15
	通貨オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
合計		—	290	290

（注）上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号）等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等は、上記記載から除いております。

(3) 株式関連取引

該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

該当事項はありません。

(5) 商品関連取引

該当事項はありません。

(6) クレジットデリバティブ取引

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第1四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）
1株当たり四半期純利益金額	円	10.03	10.37
（算定上の基礎）			
四半期純利益	百万円	2,053	2,122
普通株主に帰属しない金額	百万円	—	—
普通株式に係る四半期純利益	百万円	2,053	2,122
普通株式の期中平均株式数	千株	204,639	204,617

（注）なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

平成26年 8 月 6 日

株式会社名古屋銀行

取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 福井 淳

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池ヶ谷 正

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社名古屋銀行の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社名古屋銀行及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年8月7日
【会社名】	株式会社 名古屋銀行
【英訳名】	The Bank of Nagoya, Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役頭取 中村 昌弘
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	名古屋市中区錦三丁目19番17号
【縦覧に供する場所】	株式会社 名古屋銀行 岐阜支店 (岐阜市長住町六丁目14番地) 株式会社 名古屋銀行 東京支店 (東京都中央区八重洲二丁目2番10号) 株式会社 名古屋銀行 大阪支店 (大阪市北区西天満五丁目16番5号) 株式会社 名古屋銀行 静岡支店 (静岡市葵区追手町1番6号) 株式会社 東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社 名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

(注) 東京支店、大阪支店、静岡支店は金融商品取引法の規定による備付場所ではありませんが、投資者の便宜のため確認書の写しを備えるものであります。

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当行取締役頭取 中村 昌弘は、当行の第97期第1四半期（自平成26年4月1日 至平成26年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。